



きあらひらかわ



互いに認め、支えあう、男女(ひと)がきらめく平川市

第11号 平成25年3月1日発行



(2月11日開催「雪と子どもたち」より)

男女共同参画の視点でまちづくりに参画しましょう!

女性は家庭や職場、さらには、地域社会で大切な役割を担っていますが、何かを意志決定する場面では、「どうせ聞いてくれない」「そういう大事なことは男性に決めさせればいい」ということで、女性が十分に参画しているとは言えない状況です。

平川市では、女性が進んで、市のさまざまな分野の委員に参画することを推進しています。(現状:24.7% ⇒ 目標:30%以上)

男女がお互いに協力し、大切なひとと幸せに生きていく、そんなまちづくりに参画してみませんか。

「きあら(chiara)」はイタリア語で「光り輝くもの」「よろこびをもたらすもの」を意味します。平川市男女共同参画推進プランの基本理念である「互いに認め、支えあう、男女(ひと)がきらめく平川市」のとおり、輝く未来を見つめながら性別にかかわらず一人ひとりがお互いを認め、自分らしさを十分に生かせる平川市をめざしたいという願いを込めています。

平川市では、市内の小中学校の児童生徒から、「ひとのやさしさを感じた瞬間」「支え合い・助け合いの大切さ」など、『めぐもり・きずな』にちなんだ標語を募集しました。市長賞を受賞した作品をご紹介します。

小学校の部 市長賞
あいさつで 人がつながる 通学路
全田小学校 6年 駒井 七瀬 さん

中学校の部 市長賞
ありがとう 照れて言えない でも感謝
尾上中学校 1年 松田 伴哉 さん

避難所づくりに 男女共同参画の視点を！

男女（ひと）が互いに支え合う、過ごしやすい
避難所づくりを考えてみましょう！

東日本大震災から約2年が経過しようとしております。震災で多くの方々が避難所での生活を強いられました。避難所の運営について、男女共同参画の視点、特に女性や子育て家庭のニーズに配慮した対策が十分ではありませんでした。その理由は、避難所の運営や災害現場等での意思決定に、女性がほとんど参画していなかったためとされています。国では、実際に避難所であった問題点を踏まえ、男女共同参画の視点からの震災対応について検討していますので、その一部を紹介いたします。



《震災で浮かび上がった問題点》

- ・ 日ごろからの防災の検討や、避難所運営などでの意思決定に女性が参画していない。
- ・ 防災・震災対応に女性の視点が入らず、配慮が足りない。
- ・ 震災が起き、固定的性別役割分担（例：男は仕事、女は家庭）が更に強化。

《避難所で実際にあった事例 ⇒ 対応策》

- ・ 生理用品、おむつ、粉ミルクがない。粉ミルクがあっても哺乳ビンがない。
⇒ 避難者の性別、年齢、特に配慮が必要な情報（おむつ、病気など）を把握する。
- ・ 女性用下着や生理用品があっても男性が配布しているため、受け取りづらい。
⇒ 支援物資を管理する係に女性も参加して、女性用品のニーズを把握する。女性用品は女性が配布する。（配布時、ポーチや袋に入れる等の配慮）
- ・ 授乳や着替えをする場所がなく、布団の中で着替えをした。
⇒ 乳幼児とそのお母さん専用の場所や、女性用更衣室等を設置する。
- ・ 女性用の物干し場がないため、下着が干せない。
⇒ 女性専用の物干し場を設置する。
- ・ 朝起きたら、女性の横に知らない男性が寝ていた。
⇒ 家族ごとに間仕切りを立てる等、プライバシーを確保する。



- 男女（ひと）がともに支え合い、責任を分かち合って避難所を運営するために、
- ・ 女性も積極的に避難所の運営する組織に参画しましょう。
 - ・ 男女を交えた、多様な人たちで話し合い、物事を決定しましょう。
 - ・ 役割分担を工夫し、特定の人にだけ負担がかからないようにしましょう。

女性も生活者の視点を生かし、積極的に避難所運営に参画し、お互いの経験と知恵を生かし合ってこそ、「安心して過ごせる避難所」になります。日ごろから、非常時において、全ての人が尊厳ある生活を営むことができるよう、支え合い、助け合いましょう。

平成25年2月2日（土）平川市文化センターにて、「男女共同参画推進事業」として「男女共同参画講演会」が開催され、約50人の市民が耳を傾けました。県立保健大学の佐藤恵子先生を講師に迎え、「DV対策」をテーマとした講演会「DVって何だろう？～大切な男女（ひと）と幸せに生きていくために～」を行いました。佐藤恵子先生の講演では、DVについて正しく知ること、DV被害者の相談を受けられるようになってほしいと話され、また、DVを根絶するためには、被害者への保護・救援・自立支援体制の確立、加害者への処罰・再教育、さらには、若い人たちへのDV防止の教育が必要と話されていました。以下、要約を掲載します。



《DVってどんなもの？》

DV（読み方：でいーびい、ドメスティック・バイオレンス）とは、一般的に配偶者や恋人など親密にある（あった）者からの暴力のことをいいます。

- ・ いろんな暴力が複合的に振るわれ、パターン化されて繰り返し起こります。
 - ・ からだへの暴力（げんこでなぐる、足でける、平手でうつ、物をなげるなど）
 - ・ ところへの暴力（大声でどなる、実家や友人とのつきあいを制限するなど）
 - ・ 性的暴力（性行為を強要する、避妊に協力しない、中絶を強要するなど）
 - ・ 経済的な暴力（生活費を渡さない、借金を負わされるなど）

- ・ 被害者自身が認識しておらず、長期化して深刻化しがちです。
- ・ 本質は暴力でパートナーを支配（コントロール）することです。
- ・ 被害者の自由な意思や行動を奪い、人としての尊厳を踏みにじる重大な人権侵害であり、許されない犯罪です。
- ・ 個人で解決できる問題ではなく、社会が責任を持って解決しなければなりません。

《DVでどんな影響があるの？》

- ・ 被害者はいろんなトラウマを抱えて、抑うつ症状や自殺願望が起きたりします。
- ・ DVを子どもに見せることは児童虐待です。
- ・ 子どもがDVを見ることで、トラウマを抱え発達障害・情緒不安定になり、暴力の加害者になったりします。（暴力の学習—世代間連鎖）



《DVの被害者はなぜ逃げられないの？》

- ・ 仕返しを恐れたり、周りの目が気になったり、子どものために我慢しているケースがあります。
- ・ 逃げた後、自立できるのか、また、孤立するのではと不安になったりすることが原因です。
- ・ 「夫婦げんかのうちでしょ」などDVに対する社会的認識の甘さと考えられます。
- ・ 被害者への偏見や、体罰・しごきなど暴力を容認する社会風土、人権意識の低さなども原因です。

《DVを根絶するためには何が必要？》

- ・ 被害女性を保護して救済する必要があり、また、被害女性の自立を支援する必要があります。
- ・ 加害男性に対して処罰し、また、再教育を義務化する必要があります。
- ・ 若い人たちへのDV防止のための意識啓発や教育活動が必要です。

～講演会に参加して～

アンケートでは、多くの方から講演会に参加して満足したという声をいただき、また、「DVに対する社会的認識の甘さ」「DVによる人権侵害は犯罪」「子供のためにDVを我慢してはいけない」等、印象に残ったキーワードがあったようです。

また、「夫婦一緒に講演会に参加したほうがよかった」「DV防止のため市の取組みを強化してほしい」等の意見が出されました。

ひとりで悩まないで！～緊急の場合は迷わず110番～

- 【身近な相談窓口】
- ・ 市役所民生保護課 TEL44-1111（内線1164）
受付時間 平日（祝祭日除く）8:15～17:00
 - ・ 中津地域県民局地域健康福祉部福祉総室 TEL33-3211
受付時間 平日（祝祭日除く）8:30～17:15
 - ・ 黒石警察署 刑事生活安全課 生活安全係 TEL52-2311
受付時間 24時間

平川市では、今後も、市民の皆様にも男女共同参画を考えていただく場として、このような機会を提供していきたいと考えております。



このコーナーは、いろんな方に、男女共同参画について日頃の思いを書きつづけていただくという企画です。

平川市男女共同参画推進会議委員 佐藤 あつ子 さん (みなみの)



今から14年前に第5回女性の船に参加しました。
その時初めて男女共同参画社会そしてジェンダー（※）という言葉と出合いました。

洋上トークの中で、「学校の名簿が男の子から始まるのはジェンダーだ」とか「トイレの表示の“赤が女”で“黒が男”はジェンダーだ」などとの意見に、なにしろ今より14歳も若かったものですから、「なんでそんな小さなことに目くじらたてるの?」「そう言っている人たちの心にこそ差別があるんじゃないの?」と生意気なことを思っていました。

※ ジェンダー
文化的・社会的な性別のことをいい、いわゆる「男らしさ」「女らしさ」や、物事の適性について性別により「向き不向き」を捉える考え方をいう。

丁度同じ時期にかねてから望んでいた仕事を始めることになりました。
営業時間が長く朝の9時から夜の9時までで、遅番の日は朝のうちに朝食、弁当、夕食を準備して出かけますので、夫もレンジでチンの生活がスタートしました。

ある夕食の時、「う～ん、今日のご飯おいしいなあ～」と心から夫が言うのです。特別な献立でもないのに。「二人で食べているからおいしいなあ」なのだトキッとさせられました。

そんな夫も退職し、しばらく庭いじりなどをしてのんびりしていたのですが、思いきって店の手伝いに誘ってみました。今では生き生きと楽しく働いています。

そして私に「今までよくいろいろやって来たね」との一言。

私が同じ質問を2回すると怒鳴るほどの日本男子（ジェンダーかな?でもあえて）の夫だったので余計にホロリとさせられました。



男の人でも女の人でも、年齢がいくつであっても新しいことと向き合い、何かを感じ、他の立場を思いやる、そんなチャンスはたくさんあると思います。

私の夢は、そんな様々な世界を子どもたちに見せ、ふれさせ、体感させたいことです。

もうひとつ例をあげさせて下さい。

私の知人が職場の人を注意した時「あんたの常識は、私の非常識です」と切り返したそうです。悲しいですね。

世の中の大人たちが皆このような自分しか見えていない人だったら、子どもたちはどう育つのでしょうか。いじめや体罰も許せません。もどかしいです。

子どもたちに未来への夢を持ってもらうためには、私たち大人が自分の持っている知識や特技でサポートすればいいのです。

そして、子どもたちに様々なことを体験させ、感動させれば、一人ひとりが自分の力を知り前に進むようになるので、自然に男女共同参画社会が生まれてくると私は思います
が・・・。